

## ■立候補届

氏名	足立 力也	立候補する 役職名	全国協議会委員		
住所 市区町村まで	福岡県嘉穂郡桂川町	性自認による 自己申告の姓	男	年齢	39
肩書き 二つまで	コスタリカ研究家				
主な 活動テーマ	平和問題、紛争解決、教育、国際関係				
立候補の 抱負	<p>2004年、「みどりの会議」の公認候補として参議院全国比例区で立候補して以来、一貫して「緑の党」の設立を主張してきました。この間、コスタリカ研究家として全国を飛び回りつつ、講演や著書などで経済成長至上主義からの脱却、エコロジー主義、草の根民主主義、社会的公正など、緑の理念の普及に努めてきました。</p> <p>国際関係分野では、2005年のアジア太平洋グリーンズネットワーク（APGN）第一回大会（京都）、2006年の北東アジアグリーンズ安全保障会議（ウランバートル）、2008年のグローバル・グリーンズ第二回大会（サンパウロ）、2010年のAPGN第二回大会（台北）、2012年のグローバル・グリーンズ第三回大会（ダカール）など、緑の党に関わる国際的な会議に代表団の一員として参加してきました。</p> <p>また、毎夏行われる東アジア市民共同体ワークショップ、脱原発ドイツツアーの企画・実施、ミュンヘン緑の党の招聘によるドイツ訪問、Rio+20 ピープルズサミット、オーストラリア脱原発講演ツアーなどを通じて、日本のグリーンズの名代として東アジアの平和構築や脱原発などを訴えてきました。</p> <p>3.11以降は、原発震災プロジェクトチームリーダーとして声明の原案作りなどに携わり、原発を現代資本主義社会の象徴として捉えることで、脱原発を単なる一過性の問題としてではなく、現代社会の根本的な転換点と捉えるべきだと全国で訴えて回りました。</p> <p>新しい「緑の党」でもこれまでと同じ領域での一層の活動を全国協議会委員の名のもとに続けることで、これまで私が築き上げてきた人的繋がりやテーマを緑の党の活動に一層活用できると考えております。</p> <p>「みどりの会議」時代の唯一の「生き残り候補」であり、APGNの運営委員である私が全国協議会委員になることは、新しい「緑の党」に歴史的・国際的正統性を付与することにもなるでしょう。歴史的継承性、国際的正統性、平和問題担当といった意味合いも含め、全国協議会委員へ立候補致します。</p>				
推薦者	お名前	ご住所（市区町村まで）	TEL もしくは e-mail		
	渡辺さと子	香川県高松市			
	高橋良	宮城県仙台市			
	本河知明	福岡県福岡市			
	坂田昌子	東京都八王子市			
	坂田光永	広島県福山市			
	真木彩子	千葉県山武郡大網白里町			

## 【推薦状】

足立力也さんのコスタリカ研究者としての活躍や、日本の緑の政治勢力の形成のためにこれまで果たして来られた大きな役割は、改めてここに記すまでもありませんので、ここでは、「みどりの未来」の国際局のリーダーとして果たして来られた役割にしぼって推薦理由を述べます。

足立力也さんは、「みどりの会議」時代から、特にグローバル・グリーンズやアジア太平洋グリーンズ・ネットワークなど、海外の緑の党や運動体との連携を進める上での中心的なメンバーとして重要な役割を果たして来られました。

2008年にサンパウロで開催された第2回グローバル・グリーンズ大会では、堪能なスペイン語を駆使して世界の緑の仲間に日本の「みどり」の存在をアピールし、2012年にダカールで開かれた第3回グローバル・グリーンズ大会では、各国の賛同を得て脱原発決議をあげることに尽力されました。

また、3.11後、海外の緑の党関係者との連携・協力関係を強めて脱原発を実現するための各種の取り組みの中でも「みどりの未来」の国際局のリーダーとして、中心的な役割を果たして来られました。

さらに、アジア太平洋グリーンズ・ネットワークの運営委員会でも日本の「みどり」を代表して、この地域での緑の党や運動体の連携を強める活動に取り組んでおられます。

したがって、新たに結成される緑の党（仮）においても、全国協議会委員という立場で、日本と海外の緑を結ぶ役割を果たしていただきたく、ここに推薦するものです。

2012年7月14日

渡辺 さと子

私、高橋良は、足立力也さんを、新しい「みどり」の政党の全国協議会委員に推薦します。

私が彼の名前を知ったのは、当時参議院議員だった中村敦夫氏が立ち上げた「みどりの会議」の参議院議員選挙の立候補者としてでした。立候補者の中では最も若く、「みどり」の立場から平和運動を中心に活躍していることを知り、その活躍に期待していました。

彼の肉声を初めて聞いたのは、その後「みどりのテーブル」が結成された時の京都での会議においてでした。日本における「非暴力」ではない運動の伝統の重要性を指摘した参加者に対し、はっきりと「非暴力」の立場から反対したその発言は、私に強い印象を与えました。著作活動を含めたその後の彼の活動を見るなら、彼が、「エコロジー」と「非暴力」という「みどり」にとってきわめて重要な理念を代表するに足る人物であると考えます。

もともと、東北に住む私と九州に住む彼との間に日常的な接点があるわけではなく、詳細な点に関し、考え方の違いもあると思われませんが、ざっくばらんに考えを戦わせながら、「みどり」の理念の実現に寄与していくことが出来ると思います。また、この九州在住という点は、実務がどうしても東京（もしくは関西）中心にならざるを得ない、ということからハンディになる場合もありえますが、「国際関係」を中心に、彼が出来る、いや彼にやらしてもらわなければならない仕事は必ずやあると思います。

日本における「みどり」の政党運動の原点とも言える「みどりの会議」から現在に至まで、「みどり」の立場を守り続ける彼は、海外も含め、対外的に日本の「みどり」を象徴するものとも言えます。全国協議会委員は、ジェンダーバランス、地域バランスなど、さまざまな問題を考慮して選ばれなければならないと思いますが、それでも欠くべからざる人材ではないでしょうか。

日本で本格的な「みどり」の政党が結成されたあかつきには、諸外国の「緑の党」を含め、これまで以上に海外との交流が活発化すると思われます。海外への発信や海外からの発信の翻訳等、その作業量が飛躍的に増えるのは明らかであり、全国協議会委員の地位にあつて国際部門を担当するメンバーが複数必要となると考え、その任にふさわしい人物として、足立力也さんを全国協議会委員に推薦します。

高橋良

私、本河知明は、新組織の全国協議会委員として足立力也さんを推薦いたします。

推薦理由：

足立力也さんは、2004年の「みどりの会議」の参院選候補者として、また、その後の「みどりのテーブル」「みどりの未来」の国際局の担当者として、国内的にも国際的にも日本の「みどり」を代表する者の一人として、これまで8年間活動を続けてきました。2004年の候補者10名のなかで唯一、中心メンバーとして残られている方だと言って間違いのないでしょう。多くの自治体議員やNGO・NPO関係者が「みどり」を前面に出しては活動されない中、ぶれることなく「みどり」を前面に出して活動してきました。また、誰よりも「みどり」の政治理念を熟知していると思います。

この8年で、新しい方が次々と加わり、輪が広がっていていることは喜ばしいことですが、いよいよ「日本にも緑の党を…」と、新組織が結成されるこの機において、足立力也さんは全国協議会委員に必ず必要な方です。自信を持って、私は足立力也さんを全国協議会委員に推薦いたします。

2012年7月16日

本河知明

緑の党全国協議会委員の選出につきまして、足立力也氏を推薦いたします。

足立氏は、「緑の会議」以来、日本において緑の党を設立すべく、全国比例区公認候補となるなど長年にわたり奮闘してきており、幅広く貴重な経験は無視できないものであると考えます。とりわけ、グローバル・グリーンズへの参加、ドイツ緑の党との関係など足立氏の国際的な活動には、注目する必要があります。また、わたしたちが学ぶべきものが多いコスタリカに関する知見は、おそらく日本において彼の右に出る人はいません。このような彼の社会学的知見、経験、能力、幅広い人脈は、今後の緑の党の前進におおいに寄与するものです。

足立氏は、国際部門という一部門にとどまるものではなく、緑の党全体にかかわる内容を包摂している貴重な人材であり、全国協議会委員にふさわしい方だと判断いたしますのでよろしくご検討ください。

度十の会代表・緑の党準備委員会世話人

坂田 昌子

足立力也さんを全国協議委員に推薦します。

第一に、足立力也さんは類まれな「ブレインワーカー」(頭脳労働にたけた人)です。現実起こる様々な問題を、原則に照らし合わせて理論を組み立て、結論を導き出す人です。そういう理論構築の力は、「みどり」の現場でたたかう多くの人を支えるはずです。

第二に、足立力也さんは冒険的な「フットワーカー」です。コスタリカやキューバといった、あまり人が行かないようなところにポーンと飛び込み、歩き回って多くの知見を得ています。誰よりも世界の「現地」を知っているのです。

第三に、足立力也さんは国際的な「ネットワークワーカー」です。3.11以降だけでも、ドイツ、オーストラリア、セネガル、リオなどへと飛び回り、ネットワークをつなぎ続け、日本の「みどり」を世界へ発信し続けています。

足立力也さんには、苦手と思われる側面もあるでしょう。ときに頑固に主張を曲げないところは、チームワーカーとしてはクセがあるかもしれません。また、見境のないハードワーカーである点は、はたから見ているとちょっと心配です。

でも、そのこともまた、足立力也さんの魅力です。そんな「ワンダーワーカー」(奇跡を行う人)である足立力也さんを、私は推薦します。

2012年7月10日

坂田光永(広島県福山市)

「緑の党」、あるいは私たち「みどり」の掲げる1つの柱、「非暴力・平和」を、その活動領域においてまさに体現しているのが足立力也さんです。「軍隊をすてた国」コスタリカを歩き、学び、人びとと時間をともにして政治文化や教育の現場を体感されてきた足立さんは、自らの言葉、映像、文章を通じて、私たち「みどり」の仲間はもちろん、世の中に対してこれまでずっと「平和をつくる」ということを伝え続けてきました。みどりの未来が出してきた平和関連の声明や論説の作成においても、足立さんが果たしてきた役割は大きいのではないのでしょうか。

また、コスタリカでの経験や政治学を研究されてきた立場から、民主主義というひとつの価値観についても深い見識をお持ちです。やはり「みどり」の根源的なテーマである参加型民主主義を具現化していくうえでも、あるいは「みどり」における組織の運営、意思決定の局面でも、足立さんの存在は非常に重要だと思います。

そして私が最も深く共感するのは、足立さんの伝えてくれる様々なことの中に共通している“**Slow Small Simple**”です。「何でも、そこそこがいい」（コスタリカの政府高官の言葉）、「ないものねだりより、あるものさがし」（朝日新聞筑豊版での連載）といった発想は、私自身がそもそもみどりの運動に関わることになった原点と通じています。

日々ノートパソコンやキャリーケースを携え、福岡の地から全国あちこちへ走り回っていらっしゃるお姿と、そのキャパの大きさ、フットワークの軽さにはいつも頼もしさを感じ心から敬服しています。

「丸腰国家」コスタリカの日本でただ一人の専門家であること、加えて民主主義や脱成長の概念にも精通している足立力也さんが、今後も「みどり」の運営を担っていくお一人となられることを期待して、全国協議会委員に推薦をいたします。

真木 彩子